

# SYLLABUS(後期)

授業科目	インテリアデザイン実習		年次	2年	前後期	前	単位	4
授業の種類	実習	科目区分	必修		実務経験のある教員による授業科目			○
実務経験内容	建築士及びインテリアコーディネーターとして内装に関する実務経験を有す。							
教育目標	コーディネーションボードを作成して、プレゼンテーションを行う等、インテリアの総合技能を習得させる。また、設計製図・CAD等と連携して卒業作品を制作させる。							
成績評価の方法・基準	成績は100点満点とし、60点以上をもって合格点とする。科目期末試験、平常試験の成績及び出席状況を厳正に審査して、成績を評価し、その評価に基づき単位を付与する。 科目成績評価は絶対評価の4段階であり、優(A:100点~80点)、良(B:79点~70点)、可(69点~60点)、不可(D:60点未満)とする。							
回数	題 目		授 業 内 容					
1	個室(寝室・子供室)空間のインテリア計画(I)		家具レイアウト図					
2	個室(寝室・子供室)空間のインテリア計画(I)		家具レイアウト図					
3	個室(寝室・子供室)空間のインテリア計画(II)		コーディネーションボード 内観パース、仕上材、家具、照明器具					
4	個室(寝室・子供室)空間のインテリア計画(II)		コーディネーションボード 内観パース、仕上材、家具、照明器具					
5	個室(寝室・子供室)空間のインテリア計画(II)		コーディネーションボード 内観パース、仕上材、家具、照明器具					
6	個室(寝室・子供室)空間のインテリア計画(II)		コーディネーションボード 内観パース、仕上材、家具、照明器具					
7	水廻り(トイレ・洗面所・浴槽)の設備計画		水廻り(トイレ・洗面所・浴槽)の設備計画					
8	水廻り(トイレ・洗面所・浴槽)の設備計画		水廻り(トイレ・洗面所・浴槽)の設備計画					
9	水廻り(トイレ・洗面所・浴槽)の設備計画		水廻り(トイレ・洗面所・浴槽)の設備計画					
10	水廻り(トイレ・洗面所・浴槽)の設備計画		水廻り(トイレ・洗面所・浴槽)の設備計画					
11	仕上材・インテリアエレメントのコーディネーションボード		インテリアの仕上材、インテリアエレメント					
12	仕上材・インテリアエレメントのコーディネーションボード		インテリアの仕上材、インテリアエレメント					
13	仕上材・インテリアエレメントのコーディネーションボード		インテリアの仕上材、インテリアエレメント					
14	仕上材・インテリアエレメントのコーディネーションボード		インテリアの仕上材、インテリアエレメント					
15	後期まとめ		後期まとめ					
1回配当時間	4時間	2コマ						
使用教科書	インテリアコーディネーター 合格テキスト 新試験対応版、インテリアコーディネーター1次試験過去問題徹底研究 上巻下巻							

# SYLLABUS(後期)

授業科目	ビジネスマナーⅡ		年次	2年	前後期	通年	単位	4
授業の種類	講義	科目区分	必修		実務経験のある教員による授業科目			
実務経験内容								
教育目標	社会人、企業人としての心得・礼儀作法、マナーについて学ぶ。							
成績評価の方法・基準	成績は100点満点とし、60点以上をもって合格点とする。科目期末試験、平常試験の成績及び出席状況を厳正に審査して、成績を評価し、その評価に基づき単位を付与する。 科目成績評価は絶対評価の4段階であり、優（A：100点～80点）、良（B：79点～70点）、可（69点～60点）、不可（D：60点未満）とする。							
回数	題 目	授 業 内 容						
1	社会常識を高める情報収集、分析①	新聞に必ず目を通し、効果的な運用を紙面構成を知って効率のよい読み方を						
2	社会常識を高める情報収集、分析②	マス・メディアを利用した情報の収集 インターネットの利用						
3	社会常識を高める情報収集、分析③	新聞記事の読み方						
4	表とグラフ①	数値の把握の大切さ 表とグラフの役割と重要性 表の特徴と形式 表を読むための基礎知識						
5	表とグラフ②	表と計数処理 用語に関する基礎知識 グラフを読むための基礎知識						
6	業種・業界の知識①	日本経済の基本構造 日本経済の発展過程						
7	業種・業界の知識②	さまざまな業種と最近の動き						
8	業種・業界の知識③	産業構造の変化と新しい産業 社会生活と価値観の変化						
9	会社の仕組みと売上・利益①	会社の3つの大きな特徴 売上と利益						
10	会社の仕組みと売上・利益②	新しい社会制度 会社の社会的な意義						
11	会社の仕組みと売上・利益③	組織を効率よく動かすための分業システム 組織はライン部門とスタッフ部門にわかれる						
12	会社の仕組みと売上・利益④	組織内における自分の役割を認識する 組織の一員として自覚しておきたいこと						
13	社会保険と税金①	社会保険は社会保障制度の根幹 健康保険・雇用保険・労災保険						
14	社会保険と税金②	国民年金と厚生年金 国税と地方税						
15	社会保険と税金③	所得税と住民税 将来の生活設計を考えたいことでの保険選び						
1回配当時間	2時間	1コマ						
使用教科書	ビジネス能力検定ジョブパス3級公式テキスト、就職活動 実践！ワークブック 改訂版							

# SYLLABUS(後期)

授業科目	環境工学		年次	2年	前後期	通年	単位	4
授業の種類	講義	科目区分	必修		実務経験のある教員による授業科目			○
実務経験内容	建築士として建築設計事務所を運営し建築業務全般に関する実務経験を有す。							
教育目標	建築環境を構成する要因を理解し、快適で健康的な居住空間を構築する手法を理解させる。							
成績評価の方法・基準	成績は100点満点とし、60点以上をもって合格点とする。科目期末試験、平常試験の成績及び出席状況を厳正に審査して、成績を評価し、その評価に基づき単位を付与する。 科目成績評価は絶対評価の4段階であり、優（A：100点～80点）、良（B：79点～70点）、可（69点～60点）、不可（D：60点未満）とする。							
回数	題 目	授 業 内 容						
1	熱の流れの基礎	熱貫流の概念、熱伝導、熱伝達、中空層の熱伝達						
2	熱貫流と日射	熱貫流率、日射の取り扱い						
3	建物全体の熱特性	総合熱貫流率と熱損失係数、自然室温と暖冷房負荷 住宅の省エネルギー基準、非定常伝熱						
4	湿り空気と露点温度	湿度の表し方、露点温度と空気線図						
5	結露	表面結露の判定法、表面結露の防止対策、内部結露の防止対策						
6	人体周りの熱収支	温熱環境6要素、環境温度						
7	温熱感覚指標	有効温度と修正有効温度、新有効温度と標準新有効温度、予測平均温冷感申告、PMV、局所不快感の評価						
8	外界気象	気温の変動、相対湿度の変動、クリモグラフとデグリーデー、外部風、雨と雪						
9	都市環境と地球環境	都市環境、地球環境						
10	音の性質	音の性質、音の単位、聴感						
11	騒音評価と遮音効果	騒音の評価法、遮音						
12	音響計画（Ⅰ）	吸音、残響時間						
13	音響計画（Ⅱ）	室内音響計画						
14	まとめ	演習問題						
15	試験							
1回配当時間	2時間	1コマ						
使用教科書	初学者の建築講座建築環境工学 第三版							

# SYLLABUS(後期)

授業科目	建築CAD実習Ⅱ		年次	2年	前後期	通年	単位	4
授業の種類	実習	科目区分	必修		実務経験のある教員による授業科目			○
実務経験内容	建築士として個人邸を中心とした設計事務所を運営し建築業務全般に関する実務経験を有す。							
教育目標	構造の異なる各種図面を、迅速正確に作図する能力と創造性を養成する。							
成績評価の方法・基準	成績は100点満点とし、60点以上をもって合格点とする。科目期末試験、平常試験の成績及び出席状況を厳正に審査して、成績を評価し、その評価に基づき単位を付与する。 科目成績評価は絶対評価の4段階であり、優（A：100点～80点）、良（B：79点～70点）、可（69点～60点）、不可（D：60点未満）とする。							
回数	題 目		授 業 内 容					
1	CAD製図 設備（Ⅰ）		登録図形を使用した設備図の作成					
2	CAD製図 設備（Ⅱ）		登録図形を使用した設備図の作成 図形・文字の集計					
3	CAD製図 構造（Ⅰ）		伏図・断面リスト					
4	CAD製図 構造（Ⅱ）		配筋図					
5	透視図		JwCADを利用した透視図テクニック					
6	CAD製図と プレゼンテーション（Ⅰ）		見やすい図面の作成 線の幅、フォント、レイアウトの研究					
7	CAD製図と プレゼンテーション（Ⅱ）		魅力的な図面の見せ方研究、プレゼンテーションボードの作成（1） 写真の活用、素材の収集、インターネット					
8	CAD製図と プレゼンテーション（Ⅲ）		魅力的な図面の見せ方研究、プレゼンテーションボードの作成（2） Wordその他ソフトの活用					
9	CAD製図と プレゼンテーション（Ⅳ）		プレゼンテーションボードの完成・発表・講評					
10	店舗付き2階建住宅の課題 （Ⅰ）		店舗ごとに異なる諸条件の研究 バックヤードの研究					
11	店舗付き2階建住宅の課題 （Ⅱ）		プレゼンテーションを意識した図面作成 配置図・平面図・立面図					
12	店舗付き2階建住宅の課題 （Ⅲ）		実務を意識した図面 矩計図（1）					
13	店舗付き2階建住宅の課題 （Ⅳ）		実務を意識した図面 矩計図（2）					
14	店舗付き2階建住宅の課題 （Ⅴ）		展開図・設備図などその他必要な図面					
15	店舗付き2階建住宅の課題 （Ⅵ）		まとめ、講評					
1回配当時間	4時間	2コマ						
使用教科書	建築CAD検定試験問題集、ドリルで学ぶJw-cad第3版、実践ドリルで学ぶOffice活用術、初めて学ぶ建築コンペ・卒業設計							

# SYLLABUS(後期)

授業科目	建築デザイン実習		年次	2年	前後期	後期	単位	4
授業の種類	実習	科目区分	必修		実務経験のある教員による授業科目			○
実務経験内容	建築士として建築設計監理業務に関する実務経験を有す。							
教育目標	3次元CADによる建築デザイン、外観パース、内観パースの作図方法について習得させる。							
成績評価の方法・基準	成績は100点満点とし、60点以上をもって合格点とする。科目期末試験、平常試験の成績及び出席状況を厳正に審査して、成績を評価し、その評価に基づき単位を付与する。 科目成績評価は絶対評価の4段階であり、優（A：100点～80点）、良（B：79点～70点）、可（69点～60点）、不可（D：60点未満）とする。							
回数	題 目	授 業 内 容						
1	3次元CADの基礎（Ⅰ）	3次元座標の取り方、6面図、アイソメ、簡単な立体の作図 透視図の作り方、視点とレンズ、光源、簡単な立体図のレンダリング						
2	3次元CADの基礎（Ⅱ）	マテリアルの割り当て、バンプ、光源、簡単な立体図のレンダリング モデリングの工夫、立体図形の加工						
3	3次元CADの基礎（Ⅲ）	モデリングの工夫 図面を3次元化するために必要なこと						
4	3次元モデルの作成（Ⅰ） レンダリングの実行（Ⅰ）	室内モデルの作成 床・壁・天井・窓・照明 室内モデルのレンダリング 部品も配置して、光源と結果の関連を調べる						
5	3次元モデルの作成（Ⅱ） レンダリングの実行（Ⅱ）	室内モデルの作成 床・壁・天井・窓・照明 室内モデルのレンダリング 色、質感、光源の関連を調べる						
6	3次元モデルの作成（Ⅲ） レンダリングの実行（Ⅲ）	室内モデル（オリジナルモデル）の作成 床・壁・天井・窓・照明 室内モデルのレンダリング 想定したレンダリング結果との違いを分析する 作成したモデルの修正と結果発表						
7	3次元モデルの作成（Ⅳ） レンダリングの実行（Ⅳ）	外観モデルの作成 比較的フラットな外観モデルと外構モデルの作成 外観モデルのレンダリング 光源と結果の関連を調べる						
8	3次元モデルの作成（Ⅴ） レンダリングの実行（Ⅴ）	外観モデルの作成 より複雑な外観モデルと外構モデルの作成 外観モデルのレンダリング 光源を工夫する						
9	3次元モデルの作成（Ⅵ）	外観モデルの作成 オリジナル外観モデルと外構モデルの作成						
10	レンダリングの実行（Ⅵ）	あらかじめ結果を想定して期待した結果を得られるようレンダリングの工夫を行う						
11	3次元モデルの作成（Ⅶ-Ⅰ）	外観モデルの作成 CAD実習と連動させオリジナル外観モデルと外構モデルの作成						
12	3次元モデルの作成（Ⅶ-Ⅱ）	外観モデルの作成 CAD実習と連動させオリジナル外観モデルと外構モデルの作成						
13	レンダリングの実行（Ⅶ-Ⅰ）	あらかじめ結果を想定して期待した結果を得られるようレンダリングの工夫を行う						
14	レンダリングの実行（Ⅶ-Ⅱ）	あらかじめ結果を想定して期待した結果を得られるようレンダリングの工夫を行う						
15	まとめ	出力、発表、講評						
1回配当時間	8時間	4コマ						
使用教科書	詳解2級建築士 過去7年 問題集、2級建築士試験設計製図テキスト、新しい建築の製図、ビジュアルハンドブック 必携建築資料							

# SYLLABUS(後期)

授業科目	建築材料		年次	2年	前後期	通年	単位	4
授業の種類	講義	科目区分	必修		実務経験のある教員による授業科目			○
実務経験内容	建築士として建築業務全般に関する実務経験を有す。							
教育目標	建築物に使用される材料の製法、特性、加工法、使用法について習得させる。							
成績評価の方法・基準	成績は100点満点とし、60点以上をもって合格点とする。科目期末試験、平常試験の成績及び出席状況を厳正に審査して、成績を評価し、その評価に基づき単位を付与する。 科目成績評価は絶対評価の4段階であり、優（A：100点～80点）、良（B：79点～70点）、可（69点～60点）、不可（D：60点未満）とする。							
回数	題 目	授 業 内 容						
1	非鉄金属	アルミニウム、アルミニウム合金、銅、銅合金、亜鉛、すず、鉛						
2	セラミック系材料	ガラスの性質と種類・使用法 陶磁器の塑性と分類・使用法						
3	高分子系材料 プラスチック	高分子系材料の分類 プラスチックの分類と特徴・用途						
4	高分子系材料 アスファルト・ゴム	アスファルトの分類と特徴・用途・防水の仕様 ゴムの特徴と用途						
5	塗料	塗料の分類と特徴・用途 下地材別の塗料の選択						
6	接着剤 シーリング材	接着剤の分類と特徴・用途 シーリング材の分類・特徴						
7	断熱材料 防火材料	断熱材料の種類と正しい使用法 防火性能、耐火性能をもつ材料と使用法						
8	屋根葺き材 防水材料	屋根葺き材の種類・特徴 アスファルト防水・塗膜防水・シート防水の詳細						
9	外装材（Ⅰ）	外装材の種類と使用例 タイル・石材・カーテンウォール・ALC						
10	外装材（Ⅱ）	ガラスブロック・金属板・その他の外装材						
11	内装材（Ⅰ）	天井・壁・床の部位別に要求される性能 下地						
12	内装材（Ⅱ）	左官工事・塗装工事						
13	内装材（Ⅲ）	造作工事						
14	建具	内外建具材料と建具工事						
15	用途別内外装材の実例研究	居室・通路・機械室など実際に施工されている内外装材から使用されている理由と問題点を考える						
1回配当時間	2時間	1コマ						
使用教科書	詳解2級建築士 過去7年 問題集、初学者の建築講座 建築材料 第2版							

# SYLLABUS(後期)

授業科目	建築士対策講座		年次	2年	前後期	通年	単位	4
授業の種類	講義	科目区分	必修		実務経験のある教員による授業科目			○
実務経験内容	建築士として建築設計事務所を運営し建築業務全般に関する実務経験を有す。							
教育目標	2級建築士受験に必要な重点内容について演習問題を中心に学習させる。							
成績評価の方法・基準	成績は100点満点とし、60点以上をもって合格点とする。科目期末試験、平常試験の成績及び出席状況を厳正に審査して、成績を評価し、その評価に基づき単位を付与する。 科目成績評価は絶対評価の4段階であり、優（A：100点～80点）、良（B：79点～70点）、可（69点～60点）、不可（D：60点未満）とする。							
回数	題 目		授 業 内 容					
1	建築構造（Ⅰ）		構造力学の分野のポイント解説及び演習テスト実施・解説					
2	建築構造（Ⅱ）		木構造の分野のポイント解説及び演習テスト実施・解説					
3	建築構造（Ⅲ）		RC造の分野のポイント解説及び演習テスト実施・解説					
4	建築構造（Ⅳ）		S造の分野のポイント解説及び演習テスト実施・解説					
5	建築構造（Ⅴ）		その他の分野のポイント解説及び演習テスト実施・解説					
6	建築構造（Ⅵ）		荷重と外力及び構造計算の分野のポイント解説及び演習テスト実施・解説					
7	建築構造（Ⅶ）		建築材料全般の分野のポイント解説及び演習テスト実施・解説					
8	建築構造（Ⅷ）		構造の模擬試験実施及び解説					
9	建築法規（Ⅰ）		用語の定義・申請・手続・面積・高さ等の算定・一般構造の分野のポイント解説及び演習テスト実施・解説					
10	建築法規（Ⅱ）		耐火・防火・防火区画・避難施設・内装制限の分野のポイント解説及び演習テスト実施・解説					
11	建築法規（Ⅲ）		敷地と道路・用途地域・建ぺい率・容積率の分野のポイント解説及び演習テスト実施・解説					
12	建築法規（Ⅳ）		高さ制限・日影制限・建築士法・ハートビル法・耐震改修促進法・住宅品確法・都市計画法の分野のポイント解説及び演習テスト実施・解説					
13	建築法規（Ⅴ）		その他の関係法令の分野のポイント解説及び演習テスト実施・解説					
14	総合模擬試験（Ⅰ）		法規の模擬試験実施及び解説					
15	総合模擬試験（Ⅱ）		総合模擬試験実施及び解説					
1回配当時間	2時間	1コマ						
使用教科書	詳解2級建築士 過去7年 問題集							

# SYLLABUS(後期)

授業科目	建築施工Ⅱ		年次	2年	前後期	通年	単位	4
授業の種類	講義	科目区分	必修		実務経験のある教員による授業科目			○
実務経験内容	建築士として建築設計事務所を運営し建築業務全般に関する実務経験を有す。							
教育目標	建築物の工事法や完成、引渡し及びアフターケアなどについて習得させる。							
成績評価の方法・基準	成績は100点満点とし、60点以上をもって合格点とする。科目期末試験、平常試験の成績及び出席状況を厳正に審査して、成績を評価し、その評価に基づき単位を付与する。 科目成績評価は絶対評価の4段階であり、優（A：100点～80点）、良（B：79点～70点）、可（69点～60点）、不可（D：60点未満）とする。							
回数	題 目		授 業 内 容					
1	建具工事（Ⅰ）		木製建具とアルミサッシ					
2	建具工事（Ⅱ）		鋼製建具と建具金物					
3	ガラス工事（Ⅰ）		ガラスの種類と特徴					
4	ガラス工事（Ⅱ）		ガラス工事に関する留意事項					
5	コンクリートブロック工事		材料と工法及び留意事項					
6	ALCパネル工事		材料と工法					
7	防水工事（Ⅰ）		アスファルト防水（材料と工法）					
8	防水工事（Ⅱ）		改質アスファルト防水及びシート防水（材料と工法）					
9	防水工事（Ⅲ）		シーリング工事					
10	屋根工事		各種屋根葺きの材料と工法					
11	左官工事（Ⅰ）		セメントモルタル塗り（材料と工法）					
12	左官工事（Ⅱ）		石こうプラスター塗り及びセルフレベリング材塗り（材料と工法）					
13	施工機械・器具（Ⅰ）		土工機械、揚重機械の種類と各特徴					
14	施工機械・器具（Ⅱ）		基礎工事用機械、その他工事用機械器具の種類と各特徴					
15	設備工事		各設備工事の留意事項					
1回配当時間	2時間	1コマ						
使用教科書	詳解2級建築士 過去7年 問題集、例解と演習2級建築施工管理技士試験テキスト、建築施工教科書第5版、ビジュアルハンドブック 必携建築資料							

# SYLLABUS(後期)

授業科目	建築積算		年次	2年	前後期	通年	単位	4
授業の種類	講義	科目区分	必修		実務経験のある教員による授業科目			○
実務経験内容	建築士として建築設計事務所を運営し建築業務全般に関する実務経験を有す。							
教育目標	建築図面その他から各種の経費を算出し、建設費を見積もる方法について習得させる。							
成績評価の方法・基準	成績は100点満点とし、60点以上をもって合格点とする。科目期末試験、平常試験の成績及び出席状況を厳正に審査して、成績を評価し、その評価に基づき単位を付与する。 科目成績評価は絶対評価の4段階であり、優（A：100点～80点）、良（B：79点～70点）、可（69点～60点）、不可（D：60点未満）とする。							
回数	題 目		授 業 内 容					
1	鉄骨の数量（Ⅰ）		積算の留意事項、鉄骨部材の用語と区分					
2	鉄骨の数量（Ⅱ）		表示の方法、計測・計算の留意事項					
3	鉄骨部材の計算		各部材の計算法					
4	仮設の数量（Ⅰ）		仮設の定義、分類、細目、仮設資材の資料等					
5	仮設の数量（Ⅱ）		各仮設工事の計算法					
6	仕上げ材の数量（Ⅰ）		内部仕上げ材（床、幅木、壁、天井、階段回り）の計測・計算法					
7	仕上げ材の数量（Ⅱ）		外部仕上げ材（屋根、庇、バルコニー、床、壁）の計測・計算法					
8	仕上げ材の数量（Ⅲ）		防水材の計測・計算法					
9	仕上げ材の数量（Ⅳ）		石材、タイル、レンガ材の計測・計算法					
10	仕上げ材の数量（Ⅴ）		木材の計測・計算法					
11	仕上げ材の数量（Ⅵ）		左官材、建具、ガラスの計測・計算法					
12	仕上げ材の数量（Ⅶ）		塗装、金属材、内外装材の計測・計算法					
13	建築設備（Ⅰ）		各設備における注意事項					
14	建築設備（Ⅱ）		各設備における注意事項					
15	共通費、諸経費		共通費、諸経費					
1回配当時間	2時間		1コマ					
使用教科書	詳解2級建築士 過去7年 問題集、基準に基づく建築積算入門 新訂第4版							

# SYLLABUS(後期)

授業科目	建築設備		年次	2年	前後期	通年	単位	4
授業の種類	講義	科目区分	必修		実務経験のある教員による授業科目			○
実務経験内容	建築士として建築業務全般に関する実務経験を有す。							
教育目標	快適な居住空間等を構築するために、必要な各種の設備について原理、構造等を理解させる。							
成績評価の方法・基準	成績は100点満点とし、60点以上をもって合格点とする。科目期末試験、平常試験の成績及び出席状況を厳正に審査して、成績を評価し、その評価に基づき単位を付与する。 科目成績評価は絶対評価の4段階であり、優（A：100点～80点）、良（B：79点～70点）、可（69点～60点）、不可（D：60点未満）とする。							
回数	題 目		授 業 内 容					
1	空気調和設備（Ⅰ）		空気調和の概要					
2	空気調和設備（Ⅱ）		空気調和方式の種類と各特徴					
3	空気調和設備（Ⅲ）		空気調和方式の種類と各特徴					
4	換気設備（Ⅰ）		換気の目的、換気回数					
5	換気設備（Ⅱ）		換気方式の種類と各特徴					
6	暖房設備		暖房方式の種類と各特徴					
7	電気設備（Ⅰ）		電気設備の概要、電気の流れ					
8	電気設備（Ⅱ）		受変電設備					
9	電気設備（Ⅲ）		室内配線方式の種類と各特徴					
10	照明設備（Ⅰ）		照明の基礎知識、各種光源の種類と各特徴					
11	照明設備（Ⅱ）		照度計算、コンセント回路、分岐回路の設計					
12	消火設備（Ⅰ）		火災と消火設備の種類（屋内消火栓設備、泡消火設備）					
13	消火設備（Ⅱ）		消火設備の種類 （スプリンクラー設備、ドレンチャ設備、その他の消火設備）					
14	情報通信・搬送設備		情報通信、放送、テレビ共同受信、インターホン、避雷、エレベーター、エスカレーター					
15	試験							
1回配当時間	2時間		1コマ					
使用教科書	初学者の建築講座建築設備 第三版、詳解2級建築士 過去7年 問題集							

# SYLLABUS(後期)

授業科目	建築法規Ⅱ		年次	2年	前後期	通年	単位	4
授業の種類	講義	科目区分	必修		実務経験のある教員による授業科目			○
実務経験内容	建築士として建築設計監理業務に関する実務経験を有す。							
教育目標	実務における基準法及び関連法規の運用について習得させる。							
成績評価の方法・基準	成績は100点満点とし、60点以上をもって合格点とする。科目期末試験、平常試験の成績及び出席状況を厳正に審査して、成績を評価し、その評価に基づき単位を付与する。 科目成績評価は絶対評価の4段階であり、優（A：100点～80点）、良（B：79点～70点）、可（69点～60点）、不可（D：60点未満）とする。							
回数	題 目		授 業 内 容					
1	確認と許可（Ⅰ）		確認申請の流れと必要書類					
2	確認と許可（Ⅱ）		建築許可、認定と認可、型式適合認定、法の適用除外					
3	工事の着工と完了		各種の届出、検査、工事現場の危害防止					
4	違反建築物		命令、保安上危険な建築物などに対する措置、罰則					
5	都市計画法		都市計画法の概要、開発行為と許可基準					
6	消防法		目的、防火対象物、消防用設備					
7	バリアフリー法		バリアフリー法の概要、特定建築物・特別特定建築物					
8	住宅品質確保法		法律の背景、概要、住宅の性能表示基準と性能評価、紛争処理体制の整備、瑕疵担保責任の特例					
9	耐震改修促進法		法律背景、目的、特定建築物と所有者の努力、耐震診断・耐震改修の指針と指導・助言・指示、計画の認定					
10	建築士法		概要、建築士でなければならない設計・工事監理、業務内容、建築士事務所					
11	建設業法		建設業法の概要、建設業の許可、建設工事の請負契約、主任技術者と監理技術者					
12	事例の検討（Ⅰ）		木造2階建の例題1，2（集団、単体）					
13	事例の検討（Ⅱ）		木造2階建の例題3（構造）					
14	事例の検討（Ⅲ）		RC6階建の例題1，2（集団、単体）					
15	試験							
1回配当時間	2時間		1コマ					
使用教科書	詳解2級建築士 過去7年 問題集、図説やさしい建築法規、図説やさしい建築法規、建築関係法令集 法令編、ビジュアルハンドブック 必携建築資料							

# SYLLABUS(後期)

授業科目	鉄筋コンクリート構造	年次	2年	前後期	通年	単位	4
授業の種類	講義	科目区分	必修	実務経験のある教員による授業科目			○
実務経験内容	建築士として建築設計事務所を運営し建築業務全般に関する実務経験を有す。						
教育目標	鉄筋コンクリート構造の特徴と使用材料の性質を理解し、安全で耐震性を有する建築物を構築するための、構造設計の基礎を習得させる。						
成績評価の方法・基準	成績は100点満点とし、60点以上をもって合格点とする。科目期末試験、平常試験の成績及び出席状況を厳正に審査して、成績を評価し、その評価に基づき単位を付与する。 科目成績評価は絶対評価の4段階であり、優（A：100点～80点）、良（B：79点～70点）、可（69点～60点）、不可（D：60点未満）とする。						
回数	題 目	授 業 内 容					
1	定着・付着及び継手（Ⅰ）	曲げ材の引張鉄筋付着応力度の計算					
2	定着・付着及び継手（Ⅱ）	仕口及び継手 合成構造物の付着					
3	柱・梁の接合部	接合部に発生する応力と変形 接合部設計の注意事項					
4	スラブ	スラブ応力の計算と配筋					
5	耐震壁	水平荷重を受ける耐震壁 開口の影響と開口補強					
6	基礎（Ⅰ）	独立フーチング基礎の設計 複合フーチング基礎の設計					
7	基礎（Ⅱ）	べた基礎の設計 布基礎の設計					
8	鉄筋の被り厚さ 特殊応力	場所ごとの必要被り厚さ ねじり等の特殊応力の検討と対応方法					
9	RC構造設計の流れ（Ⅰ）	モデル化と荷重 構造物を線材に置換し、荷重を計算					
10	RC構造設計の流れ（Ⅱ）	応力算定（固定法・D値法） 鉛直荷重時応力の算定、水平荷重時応力の算定					
11	RC構造設計の流れ（Ⅲ）	断面算定 スラブ、小梁、大梁、柱、基礎					
12	RC構造設計の流れ（Ⅳ）	基準法のルート別計算 壁量計算、偏心率計算、剛性率計算					
13	RC構造設計の流れ（Ⅴ）	保有耐力計算 終局耐力と保有耐力					
14	RC構造設計の流れ（Ⅵ）	部材ランクと必要保有水平耐力 剪断設計と接合部設計					
15	RC構造設計の流れ（Ⅶ）	保証設計の考え方 構造計算書のまとめ方					
1回配当時間	2時間	1コマ					
使用教科書	RC規準による鉄筋コンクリート構造設計 改定版、初めての建築一般構造						

# SYLLABUS(後期)

授業科目	鉄骨構造		年次	2年	前後期	通年	単位	4
授業の種類	講義	科目区分	必修		実務経験のある教員による授業科目			○
実務経験内容	建築士として建築設計事務所を運営し建築業務全般に関する実務経験を有す。							
教育目標	鉄骨の力学的性質を把握させ、各荷重による応力、変形等の特性を理解し安全で耐震性の高い構造設計の基礎を習得させる。							
成績評価の方法・基準	成績は100点満点とし、60点以上をもって合格点とする。科目期末試験、平常試験の成績及び出席状況を厳正に審査して、成績を評価し、その評価に基づき単位を付与する。 科目成績評価は絶対評価の4段階であり、優(A:100点~80点)、良(B:79点~70点)、可(69点~60点)、不可(D:60点未満)とする。							
回数	題 目	授 業 内 容						
1	曲げ材の力学 (I)	曲げ材、曲げ材の力学 (曲げ応力度、せん断応力度、せん断中心、曲げ材の極限状態)						
2	曲げ材の力学 (II)	横座屈 (横座屈現象、薄板開断面のねじり、薄板開断面の曲げねじり、一様曲げを受ける梁の横座屈)						
3	曲げ材の力学 (III)	許容曲げ応力度						
4	曲げ材の力学 (IV)	曲げ材の検定 (形鋼梁の検定、幅厚比の検討、曲げ応力度の検定、せん断応力度の検定、たわみの検討) 例題						
5	接合部の力学 (I)	接合要素 (接合要素と接合部、ボルト接合、高力ボルト接合)						
6	接合部の力学 (II)	接合要素 (溶接、接合要素の応力分担)						
7	接合部の力学 (III)	接合部 (各種接合部)						
8	接合部の力学 (IV)	接合部 (各種接合部)						
9	演習問題	例題 高力ボルト摩擦接合、すみ肉溶接、柱・梁接合部						
10	耐震設計概要 (I)	耐震設計体系の概要、許容応力度等計算の体系						
11	耐震設計概要 (II)	一次設計 (地上部分の地震力、地下部分の地震力、局部震度)						
12	耐震設計概要 (III)	二次設計 (ルート2による設計)						
13	耐震設計概要 (IV)	二次設計 (ルート3による設計)						
14	耐震設計概要 (V) 演習問題	二次設計 (接合部の最大強さ) 例題 保有耐力接合梁継手						
15	試験							
1回配当時間	2時間	1コマ						
使用教科書	詳解2級建築士 過去7年 問題集、鉄骨構造基礎知識 第3版、初めての建築一般構造							